

(ICT活用)

「楽しく学び、意欲的に伝え合う子どもを育てる」
～協働学習でコミュニケーション能力の向上を図る～

大阪市立滝川小学校 玉寄千賀子 榮隆弘 大家有紀子 北野光彦

1. 研究主題設定の理由

学校教育目標「自ら考え判断し、心豊かに生き抜く子どもを育てる」を設定し、知・徳・体がバランス良く育つ子どもたちの育成をめざし、研究実践を進めた。

平成25年度より本校は、「自分の考えや思いを豊かに表現する子どもを育てる」として、国語科の研究に取り組んでいた。研究を通して、課題に対して「自分の考えや思いを書いたり伝えたりすること」を意欲的に行う児童が増え、表現への苦手意識をもつ児童に変容が見られるようになった。しかし一方、他教科や学校生活の様々な活動の中などで、自分の思いを伝えたり、意見を交流したりする「伝え合うこと」については、まだ課題が多く、自分の考えを他者と比較し、共通点や相違点を見つけ根拠を明確にして説明する力を育てたいと考えた。

そこで平成28年度より、「伝え合う力」の育成を図るための研究を深めることを主軸に、3年計画の「学校教育ICT活用事業モデル校」としての取り組みと関連付け、研究に取り組むこととした。

研究主題は「楽しく学び、意欲的に伝え合う子どもを育てる」とし、副題として「協働学習でコミュニケーション能力の向上を図る」を設定し、本校の全教育活動において「伝え合う力の育成」をめざし研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

「伝え合う力の育成」とは、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり、正確に理解したりする力を高めることである。このような言語能力は、児童が、相手・目的や意図・場面や状況に応じて適切に表現したり、正確に理解しようとしたりする力として育成されるものであり、そのような子どもの姿を「楽しく学び、意欲的に伝え合う子ども」ととらえることとした。

そして、そのような子どもの姿に近づけるために、伝え合うためのツールの一つとして、ICTの効果的な活用を図ることとした。ICTを活用することで自分の思いや考えをより分かりやすく伝えることができ、伝えられた情報から自分の考えを深めていくことができると考えたからである。またICTを活用し、伝え合う場面や状況を工夫するために、協働学習による指導の在り方についても探り、状況に応じたコミュニケーション能力の向上を図ることをねらいとし研究を進めることとした。

3. 研究の概要

研究主題にせまるために、3年計画で研究を進めてきた。

ICTを活用するための組織編成と環境整備

- ICT活用3部会を設定する。「ICT活用指導力・環境整備担当部会」
「スキル指導計画担当部会」「情報モラル教育担当部会」
- 誰でも、どこでも直ぐにICT機器を活用できる環境づくりと整備を行う。

- 情報モラル教育の指導計画をたてる。児童の実態に応じた指導内容の見直しを適宜行うとともに、指導の重要性についての指導者の意識の向上を図る。

1 年目の主な取り組み

- 指導者による資料提示・・・デジタル教科書の活用と書画カメラによる拡大提示
- 児童のタブレット端末の活用開始
 - ・写真撮影とマーキング
 - ・調べ学習
 - ・通信による交流
 - ・発表ノートや Microsoft PowerPoint にまとめる活用

2、3 年目の主な取り組み

- 対話を重視した協働学習における ICT の効果的な活用を探る。
- 課題に応じたタブレット端末の活用方法の工夫を図る。

学校生活の様々な場面での活用を図る

- 自主学习ノートの紹介・閲覧
 - 給食時の「一口メモ」の投影による食育指導
 - 委員会活動やクラブ活動での活用
- など

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

学校アンケート（平成30年10月）

「ICTを活用し調べたり考えたり伝えたりすることで、学習の内容が理解できた。」に「そう思う・思う」と肯定的に答えた児童の割合は91%

ICT活用授業で行ったアンケート（平成30年1月）

「タブレットを使うと自分の意見や考えをわかりやすく説明できる」肯定的な回答88%
「友達がタブレットを使って説明するとわかりやすい」肯定的な回答94%
「タブレットを使うと新たな気づきを得て、考えを深めることができる」肯定的な回答84%
「タブレットを使うと自分の考えや調べたことをわかりやすくまとめることができる」肯定的な回答93%

以上の事から、成果としては、次の2点があげられる。

- 自分の考えをまとめたデジタルシートや資料を提示することで視覚的に分かりやすく、伝えるためのツールとして効果的な活用を図ることができ、自分の考えを表現することが苦手な児童にとっても、ICT機器を活用することで伝えたいことを整理しながら自信をもって伝えることができた。
- 自分や友達の考え、または考えの変容が、記録として残ったり共有したりすることで、考えを比較することができ、自分の考えが深まったり、課題解決に沿った話し合いを展開したりして学びの深まりが見られた。

(2) 今後の課題

- 協働学習の中で互いの考えを深める場面での活用については、基礎・基本となる「話す・聞く」指導は重要であり、「話す・聞く」についてICTを活用しながら、今までと同じように系統立てて指導することが必要である。
- ICT機器を活用する上で、情報モラルの理解と実践は欠かすことができないものである。より、児童の実態に応じた内容のモラル教育が必要である。